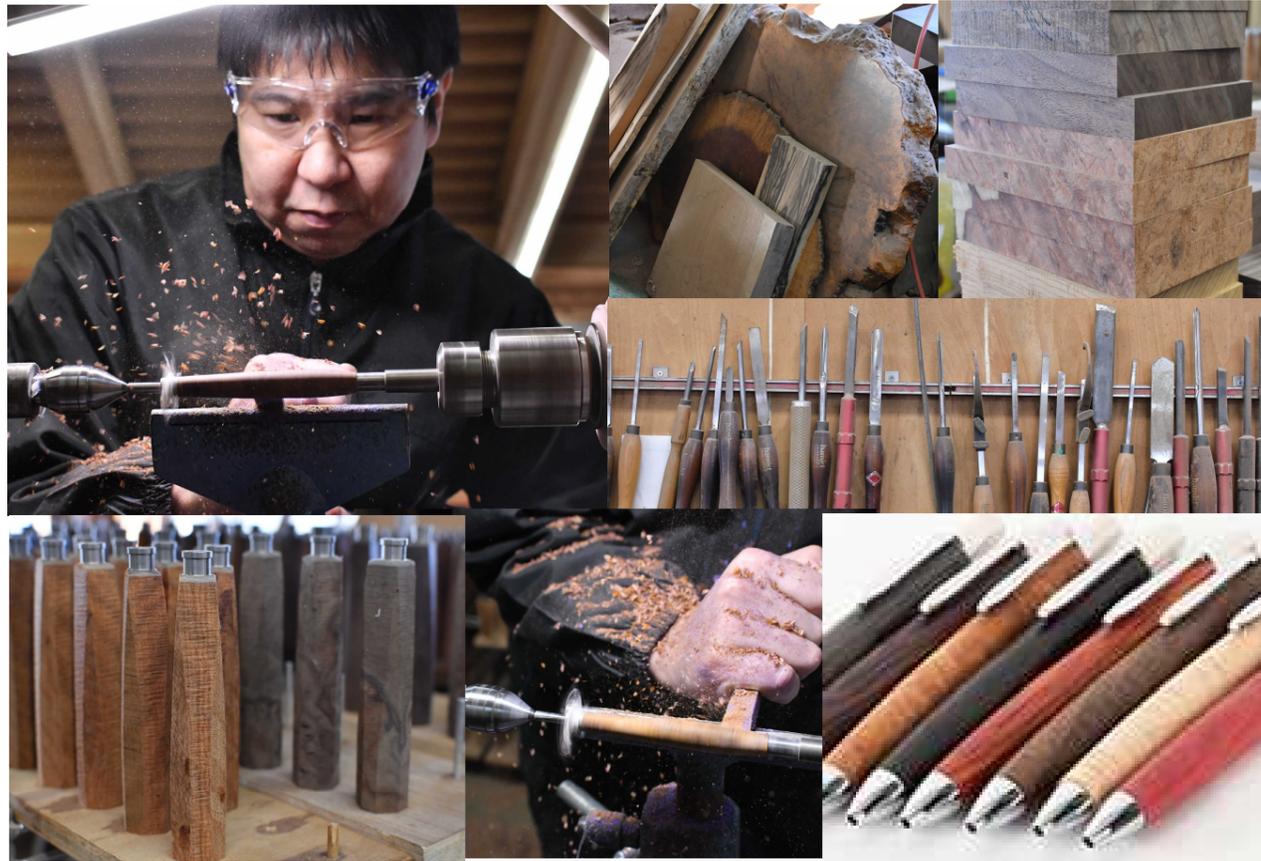


はしマイスター 工房 楔 (こうぼう せつ)

～杢へのこだわり 木の魅力と温もりを感じる最高峰木軸ペン～



◆ 申請者に関すること

申請者 (企業)	工房 楔	業種	その他の事務用品製造業
従業員数	2名	所在地	上中町
勤務先の形態	合同会社	沿革	平成16年(2004年)に創業

活動概要

工房楔の代表の永田篤史氏は、神戸芸術工科大学（インテリアデザイン専攻）在学中、木材の特殊な木目（杢）に興味を持ち、木製品の制作を開始。卒業後はオーストラリアで家具作家のフィリップ＝ブルックス氏に師事し、家具製作を学んだ。

帰国後、2004年に工房楔を設立。杢は高級素材であったことから、家具と並行して小物の製作を行ったところ、木軸ペンが注目を集める。国内外の希少な銘木の杢を厳選し、旋盤を使った精密な削りの技術で仕上げられる木軸ペンは、「趣味の文具箱」「木軸ペン図鑑」等の書籍で「日本屈指」「最高峰」と評されている。

◆ 評価項目に関すること

①-1 技術力 杢の選別 銘木の「大トロ」部分を木取り

- 杢に対する審美眼（目利き）とこだわりが他の工房・職人と比べて高く「木をマグロに例えると、大トロしか買わない・使わない」のが永田氏のポリシーである。
- 木工家としての経歴が20年以上あるため、国内外から最適な材を厳選し、適切な時期と状態（乾燥や養生）で扱うことができる。
- 材のカット（木取り）の仕方は、多くの職人がペンを多く削り出せるように「杢を気にせず」カットするところ、工房楔は「杢が一番美しく出る」カットを行う。
- 削りに使う刃物は最高級のバイト（刃物）を使用する。アメリカのハムレット社製で、材の種類や状態に応じて複数本を使い分けている。
- 削りは、やすりを最小限に抑えほぼ刃物で成形する手法が特徴的である。どのような形状でも、木製軸と金属パーツに段差がなくシームレスに仕上げることができる。
- 日本各地に木軸ペンを製作する職人が点在しているが、工房楔は野原工芸（長野県）と並んで木軸ペン業界の先駆者的存在である。

②資格・表彰・販売実績 個展・販売会は予約・抽選制 対面販売を重視

- 自前の販売店舗を持たないスタイルで、12店舗の文房具店等と提携し、それらの系列店舗を含め全国50～60店舗で木軸ペンが販売されている。
- 対面販売を重視しており、個展・販売会を2か月に1回程度（3～4日）開催している。個展・販売会は事前予約制で、毎回抽選となっている。（令和6年度の東京個展：500組の枠に570組、約800人の応募。抽選の結果、500組650人のみ参加。）
- BASE オンラインストアのネット販売でも、工房楔のyoutubeチャンネルで商品を紹介してから販売している。ネット販売も購入希望者が多数のため抽選となる。

③認知度 新聞・書籍で紹介 工房のSNSも展開

- 岐阜新聞「sunday 岐阜人」（令和5年11月26日）で活動や商品が紹介された。
- 中日新聞「岐阜県版」（令和5年12月15日）で活動や商品が紹介された。
- 趣味の文具箱（発行：ヘリテージ）で20回以上活動や商品が紹介された。
- 文房具系youtuber「しーさー」のチャンネルで工房楔が紹介され、43万回再生。工房楔の木軸ペンは頻りに動画掲載され、それぞれ10万回程度再生されている。
- 工房のホームページ、ブログ、youtube（登録者9,740人）、X（登録者6,504人）、Instagram（登録者6,083人）で日々情報を発信している。（令和6年1月時点）

④協力体制 ふるさと納税返礼品登録 市への寄付が増大

- 令和5年8月に羽島市のふるさと納税返礼品へ登録。12月末までに12,286,000円（ペンシル343本分）、3,983,500円（ボールペン121本分）の寄付を受領した。
- 羽島市役所1階市民ロビーのガラスケース展示へ商品提供を予定している。

その他 各種素材への探求心 漆芸作家とのコラボも

- 木材以外の素材（アクリル・鹿角・アセテート・エボナイト等）の削りにも定評があり、ペンハウス等の文具メーカーや漆芸作家（伝統工芸の螺鈿）とコラボレーションして文房具を製作している。